

## 平成 28 年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第 1 分科会

社会福祉法人真正会開地保育園

園長 亀澤 正隆

### 『 人を大事にできる子に・・・ 』 ～人とのつながりを生む地域づくり～

「集団」であるからこそできることがあります。「集団」でなければできないこともまたたくさんあります。子どもたちは、集団の中でお友達からよい刺激を受けながら、日々様々な変化をみせてくれます。小学校に入学した時、自分に1つでも自信を持てるものがある子であってほしい、その自信が次のチャレンジにつながってほしい…そんな願いから、当園では「子どもたちの持つ未知の可能性を広げるため、様々な経験をさせよう！いくつもの経験の中から楽しいことや自信の持てるものを1つでも多く見つけられる保育をしよう！」そんな思いを持ちながら、日々保育に臨んでいます。これはきっと「集団」であるからこそ、より子どもたちが前向きに楽しく取り組むことができているのではないかと感じています。

#### ① 交流実績

開地保育園では地域交流を大事にしており、年間を通して多世代との交流をしています。

- ◆小学校：都留文科大学附属小学校との交流が主となり、ほうとう煮会への参加、年長児が全校集会への参加、などの交流をしています。
- ◆中学校：都留第一中学校の3年生が家庭科の授業の一環として園児と交流を行っています。
- ◆高校：都留興譲館高校2－3年生で保育士という仕事に関心のある学生が体験実習に來ています。
- ◆大学生：都留文科大学の学生が授業の一環として、園児とともに森の保育園に登ったり、インターシップに來たりしています。
- ◆デイサービス：毎日、併設するデイサービスのおじいちゃんおばあちゃんと交流しています。季節の壁面制作やおもちゃ作りなどの共同作業や、歌や踊りの披露、おじいちゃんおばあちゃんから本の読み聞かせ、介護体操など、様々な内容の取り組みを通して、楽しい時間を過ごしています。
- ◆地域の高齢者：年中行事を取り入れ、昔から日本に続く文化の伝承を大事にしています。お柏作りや草だんご作り、道祖神祭りのお団子作りなどを地域の高齢者にお手伝いいただきながら伝承しています。また、地域の方のご厚意により、田植えや稲刈り体験などもさせていただいています。その他、夕涼み会やオープンキャンパス、人形劇などにもお招きしています。

## ②なぜ“交流”を大事にしているのか

子どもたちの可能性を広げ、伸ばすためには、一方的な保育にならないことが必要だと感じています。地域に住む様々な方々の力を借りて、保育を実践することが「子どもたちの育ち」をサポートし、また保育園を卒園した後の子どもたちのためになっているのです。

### < “交流” が子どもたちにもたらす影響 >

時代の変化により、核家族化が進んでいます。日常生活で高齢者と交流する機会が少ない子どもたちにとって、高齢者と接することで思いやりの心を育み、また文化に触れる機会を多く持つことができます。高齢者もまた、子どもたちと接することに、うれしさや楽しみ、生きがいを感じており、無条件に子どもたちを褒め、かわいがってくれます。これが子どもたちにとってはうれしい経験となり、自己肯定感が高まる1つのきっかけともなるのではないのでしょうか。

また、小中高生との交流では、自分たちだけでは体験できない、少し大人びていてカッコいいと憧れるような遊びを経験することもできています。お兄さんやお姉さんを独り占めできたり、自分たちのために遊んでくれたり…無邪気に遊ぶ子どもたちを見て、そのうれしさが伝わってきます。

大学生との交流は、大学生の環境教育の一環として行われており、専門家とともに大学生が森の保育園に入り、整備等も行ってくれています。こうして、子どもたちが森の保育園で安全に楽しく遊ぶことができます。

地域の高齢者との交流は、卒園してからの子どもたちにも大きく影響しています。地域交流で園児と接点を持って下さっている方々は、開地保育園を卒園し、小学生になった子どもたちを近所の通学路で見かけると、声をかけたり手をふったりしてくれているようです。また、コンビニやスーパーで顔を合わせると「おばあちゃん！」などと子どもたちが声をかけることもあるようで、「それがなんともうれしくて、かわいいのよ。」と話してくださる方もいます。子どもたちの安全を見守ってくれる人が地域に1人でも多くいること、また子どもたちが安心して声をかけることができる大人がいることは、人間関係の希薄化が懸念される現代において、大変重要なことであると実感しています。

## ③現状の“交流”から見た課題

### (1) 保育園同士の連携

「子どもの育ち」をサポートするための交流は意識してできている中で、保育園同士の交流ができていないことに気づきました。保育園を卒園し、いざ小学校に入学となった際、「知っているお友達がいらない」という不安は計り知れません。この不安解消につながり、子どもも保護者も安心して、保育園からの次なるステップへ歩き出せるためにも、他園のお友達との交流は大変意義のあるものではないかと思います。

## (2) 市内各所の小学校との連携

小学校との交流もまた、特定の小学校との交流にとどまっており、市内各所の小学校との交流ができていないことは、入学する子どもやその保護者の安心感につなげることができていない部分だと感じています。また、市内各所の小学校と連携することで、子どもたちは「その小学校の生徒になる」ことを意識することができ、また保育園として入学までに最低限習得させておくことが望ましい基礎的な知識などの意見交換や、先生方には保育園での取り組みおよび園児の様子を確認していただくなど、相互の共通理解を図り、共通認識を持てる場としても有効になるのではないかと思います。

## ④どのように“交流”を図っていくか

一概に“交流”が大切だと力説しても、現実味がありません。しかし、課題解決のためにも、今後“交流”のきっかけを考え、実践していかなければいけないと思います。今回の発表を「発表」だけで終わらせないために、当保育園の「森の保育園」を交流の場として提供していきたいと考えています。都留市役所や南都留森林組合の専門分野の方々、地域の方々のご協力のもと、安全に遊べる整備をしています。また保育士は月に1度、専門の方々による、安全に森に入るためのレクチャーを受けていますので、安心してご利用いただけます。子どもたちに交流する楽しさを、そしてそこから友達の輪が広がることへの安心感につなげていきませんか。

### ■デイサービスとの交流



■大学生との交流



■地域の高齢者と柏餅づくり



森の保育園

